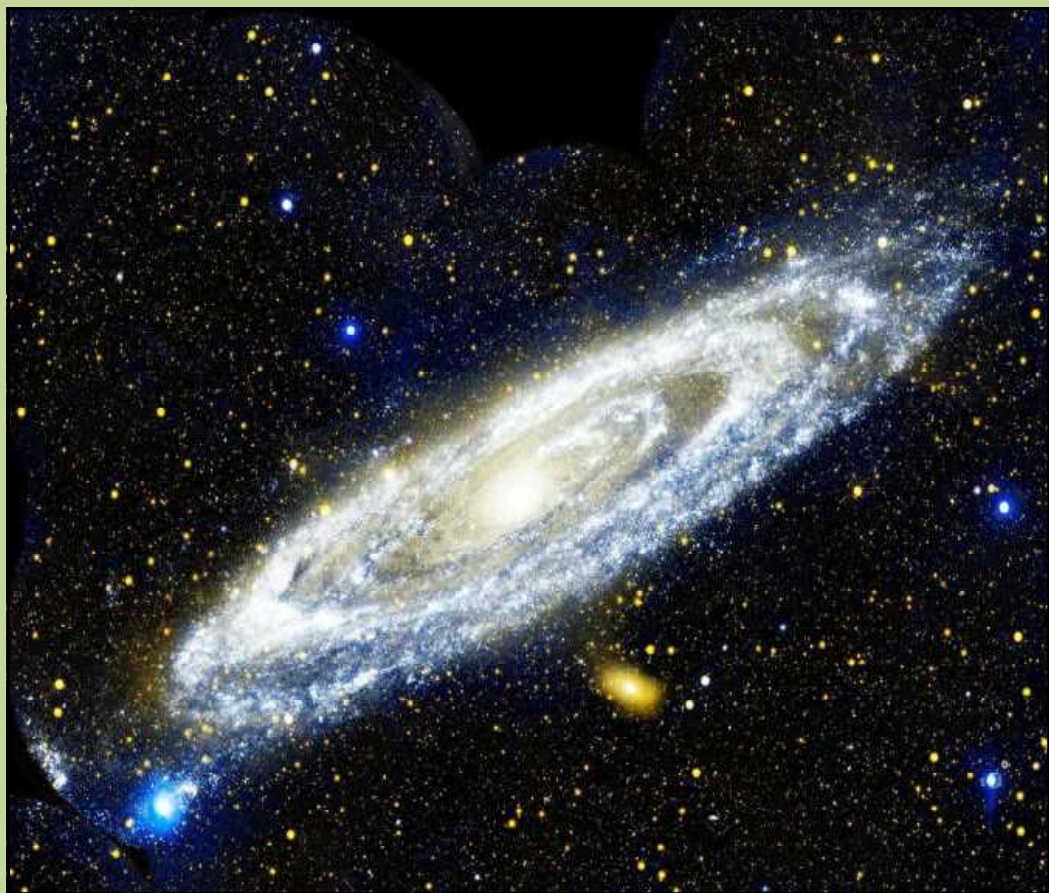


# あじまりかん通信

あじまりかん友の会機関誌 *Newsletter from Fellowship for Ajimarikan Practitioners*



Vol.1 (2018) 創刊号

隔月刊 あじまりかん通信 通巻第1号 2018年1月15日発行

あじまりかんの渦—古代渦巻き模様为例



図3：銅鐸の渦巻き紋



図1：渦巻きの入った土偶



図4：隼人の楯

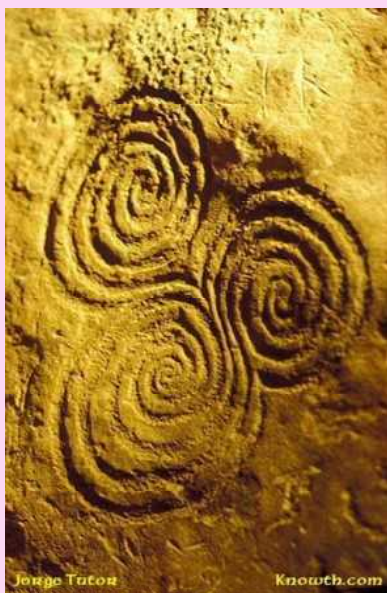


図2：古代ケルトの渦巻き

## ―あじまりかん友の会機関誌創刊―

あじまりかん通信は、世界で唯一の「アジマリカン」の専門誌です。

「アジマリカン」は大和建国時より日本に伝わる大神呪だいじんじゆと呼ばれる不思議な言霊ことたまです。

あじまりかん友の会は、大神呪「アジマリカン」の研究や行法の普及、「アジマリカン」実習者への情報提供や会員どうしの交流促進を目的として、2017年に設立されました。

「アジマリカン」とは、日本神話に登場する造化三神（創造神の本体に即した認識方法です）の波動が顕在化したコトバナなのです。山陰神道やまかげなどの古神道では造化三神を大元霊だいげんれい、大天尊神たいげんたしんなど呼びますが、もう一つの神名「天津渦々志八津奈芸天あまつうずうずしやつなぎあめのみおやのおおかみ、祖大神」に、「アジマリカン」の本質が表されています。

「アジマリカン」は、造化三神が渦巻きとなって宇宙を創造されるお姿が言霊となったもので、純粹な神のエネルギー波動が無条件で発動します。驚くべきことに、「アジマリカン」を唱えようと、その響きの中に実神、すなわち、神の実体が顕現します。まことの神が波動として降臨するのです。

その事實は、個人にとっても人類にとっても極めて重大な意義を持っています。誰もが「アジマリカン」を唱えることで、神の波動を体感し、神を直接認識できるということなのです。

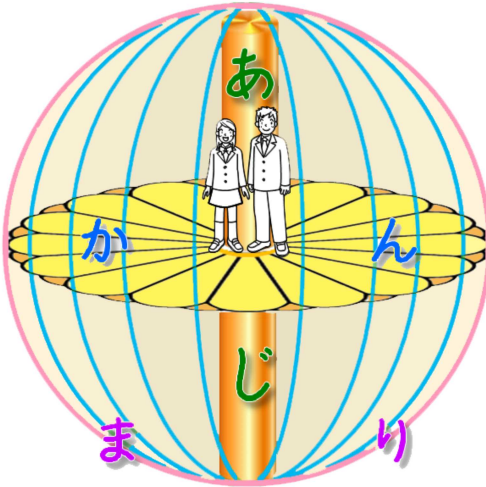
「アジマリカン」の一声で、人は一瞬にして神になるのです。そして、人はその時から神として生きてゆくこととなります。この事実こそ、斎藤が『アジマリカンの降臨』で伝えたかったことなのです。

あじまりかん友の会は「アジマリカン」を友とした人生を歩む「あじまりかん実践者」のための集いです。あじまりかん通信は、世の光・あじまりかん実践者に向けた情報発信を行います。

## 「あじまりかん」の図

◎全体として宇宙創造・国産みを表す。また、陰陽調和して生成発展する神の国を表す。

- ・中心の軸 ……天御柱あめのみはしら
- ・外側の球体……霊的な宇宙、三次元宇宙
- ・十六菊花紋……日本国（地球）・中心は天皇の座
- ・人物（男女）……我々人間。高御産巢日神、神産巢日神たかみむすびのかみのペア。イザナギ、イザナミのペアかみむすびのかみ



## 目次

あじまりかん友の会の機関誌創刊	1
あじまりかんの渦(1)	3
読者のあじまりかん体験	22
あじまりかんQ&A	24
随想―あじまりかんの肝	27
あじまりかん友の会とは	30
あじまりかん講座のご案内	31
編集後記	32

# あじまりかんの渦 (1)

斎藤敏一

はじめに―「あじまりかん」とは何か

「あじまりかん」の秘密は、拙著『アジマリカンの降臨』において徹底的に解明した。「あじまりかん」の秘密とは、次のようなものだ。

## (1) 「あじまりかん」の歴史的事実（事実）の確認

「あじまりかん」は、天皇家の異名を持つ山陰神道によって伝承された天皇家の中核的修行方法である。少なくとも千七百年間、現在に至るまで、内裏（＝天皇家）で、また山陰神道の継承者や信者によって唱え続けられたという歴史的なコトタマである。佐藤定吉博士の『日本とはどんな国』では、天皇が即位する際の霊的位格を満たす



銀河＝「あじまりかんの渦」のイメージ(1)

ための必須修行課目として「あじまりかん」を唱える修行が位置付けられていたと語られる。

## (2) 「あじまりかん」の歴史的意思

本項以下の説は、斎藤が初めて唱えるものである。

アメノヒボコは二世紀から三世紀にかけて実在した大和建国の中心的・先駆的功労者であり、眞の皇祖Ⅱ天皇霊、すなわち、大和の霊山・三輪山の主たる霊格である。アメノヒボコが大和国の王権を息子の応神天皇に付与する際に、天皇行（天皇になるための修行）としての「自霊拝」と「あじまりかん」を授けた。日本の皇室という特異な王権の基礎には、秘事とされた天皇行である「自霊拝」と「あじまりかん」が存在していた。

「あじまりかん」の本来本元は、応神天皇でも山陰神道でもなく、応神天皇に天皇行法を伝えたアメノヒボコなのである。

## (3) 「あじまりかん」というコトバの意味

「あじまりかん」というコトバは日本語（古代大和語）であり、その意味は「神は渦巻きとなって働かれる」である。このような、聞けば極めて当たり前のような単純なことが、今まで誰も分からなかったのである。「神が渦巻きである」という認識は、人類が古代より持っていた極めて普遍的な知識であり、日本人のご先祖である縄文人も弥生人も一貫して「神は渦巻きである」ことを知っていた

のである（参考：『渦巻きは神であった』大谷幸市著、彩流社、二〇〇七年）。表紙裏の図1～図4は古代の渦巻きデザインの例だが、いずれも神聖な創造エネルギーの表現として理解できる。

#### (4) 「あじまりかん」の霊的本質

山蔭神道の故山蔭基央管長は戦後、教団外部の佐藤定吉博士に「あじまりかん」の解明を託した。「あじまりかん」の秘密解明に挑戦した佐藤定吉博士が、遺作となった『日本とはどんな国』の中で、次のような決定的なヒントを残された。実を言えば、佐藤博士は認識としては正解に到達していたのである。

##### 【佐藤博士の決定的な認識内容】

その全体から来る霊的波長は、どうしても『神と人』が一如になり、『神』が人の中から顕現する時の響きのように受け取られる。

「あじまりかん」の本質は、造化三神||大元霊の霊的実体としての神的エネルギー波動である。

「天津渦々志八津奈芸天あまつうずずしや 祖あまつ大神あめのみおやのおおかみ」こそ、「あじまりかん」を説明する神名であり、アメノヒボコ

は、大元霊が働かれる姿（実際には神のエネルギー波動である）を「アヂマリカム」と表現したのである。この**神的エネルギー波動は「あじまりかん」の言霊（霊的実体）が発動したものである。**

以上の解明内容は至極当たり前の解釈であり、最初から自明だったのではないかと思わせるような

ものである。ところが、「あじまりかん」の伝承主体である山蔭神道の代々の神主も「意味不明」として解明できなかったのである。前述の神名「天津渦々志……」で、「あじまりかん」大元霊」であると気付くべきではなかったかと思うのだ（本当はご存じだったかも知れない）。

(5) 「あじまりかん」解明にかかった時間

佐藤博士は前項のような決定的な認識内容を語ったにもかかわらず、「あじまりかん」世の罪を背負う祭司長」というピントのずれた解釈を採用してしまった。この解釈は、博士の友人である川守田英二氏によるヘブル語解釈らしいが、ヘブル語訳等の根拠が示されていない。もちろん、山蔭師は佐藤博士の解釈には最期まで不同意（従来 of いずれの解釈も正鵠を得ていない）であった。

佐藤博士が飛び付いた結論は勇み足だったのだ。「あじまりかん」は古代大和語であり、ユダヤ教やキリスト教とは関係がないどころか、それ以上の霊的実体（造化三神」大元霊）が存在したのだ。佐藤定吉博士が(4)の決定的な認識内容を書かれたのは、昭和34年（1959年）頃のことだ。その時から、私が『アジマリカンの降臨』（2017年）で正解に達するまで58年の歳月を必要としたのである。アメノヒボコ（ツヌガアラシト」イザサワケノミコト）が、福井県敦賀市の気比の地で、応神天皇に「あじまりかん」を伝えたのは西暦270年頃と考えられるので、その時以来、およそ1750年経過したという計算になる。

(6) 「あじまりかん」が効く理由



「あじまりかん」を唱えると、唱えた人に何か不思議な変化が起こる。一言で言えば「あじまりかんは効く」のである。

どうして「あじまりかん」は効くのだろうか？ その理由は明らかである。

「あじまりかん」というコトバには、大元霊Ⅱ造化三神の波動的な実体が伴っているからだ。

つまり、「あじまりかん！」という発声そのもの、あるいは、「あじまりかん」を想うことが、否応なく神Ⅱ大元霊のエネルギー波動を顕在化させるのだ。

簡単に言えば、「あじまりかん」を唱えると、唱えている人の心身の中に神が波動として降臨するのである。

これが「あじまりかん」のたいなる秘密であったが、2017年に斎藤によって公開された。その結果、誰でも意味を理解した上で「あじまりかん効果」の恩恵に与ることが可能となった。

### (7) 「あじまりかん」の意識状態

「あじまりかん」を唱えた時に降りてくる神とは造化三神の波動なので、従来の神がかりや神降ろしとは全く異なる状態である。古神道の鎮魂帰神法（大別して魂振りと魂鎮めの二種類がある）では、霊などが入ってくる神がかり状態や、身体から魂が抜けて異世界に飛んでゆく脱魂状態が存在する。

一方、「あじまりかん」は、神がかりでもないし脱魂でもない。普通の意識状態で、ただ「あじまりかん」を唱えるだけである。

「あじまりかん」を唱えると、通常の意識状態のまま、神が波動として降臨する。鎮魂帰神法による神がかりや脱魂状態とは異なり、変性意識状態（トランス状態とも言う。日常的な意識状態から変化した意識状態）に入ることはない。つまり、鎮魂帰神法などの特別な古神道の修行をする必要は全くないのである。

ヨガなどでは、一定の呼吸法や瞑想の技法を使って自分の意識状態を高めることにより、神と一体になった状態に到達することを目指す。だが、「あじまりかん」の場合、そのような身体技術を使う必要はない。「あじまりかん」をただ唱えるかんで想うだけでよいのだ。

#### (8) 「あじまりかん」の安全性と普遍性

通常意識のままではよいという点で、「あじまりかん」は極めて安全であり、誰にでも簡単に実践できて一般人向けである。また、ただ唱えるだけで神と一体になれるという「あじまりかん」の特性は、人を選ばないということを意味している。この「あじまりかん」の特性より、全人類が「あじまりかん」を唱えれば、「人類が全体として神の意識の中に入ってゆくことが比較的簡単にできる」という事態を十分に想定可能である。「あじまりかん」が出たことにより、全人類が総体として神を実現することが時間の問題となったのである。なぜならば、人は一旦「あじまりかん」を唱えると、その時点より大元霊の波動によって磁化（＝神の波動が刻印）されて、元に戻ることはないからだ。人類は「あじまりかん」によって、不可逆的な霊的進化（これを「神化」と呼ぶことにしよう）の過程に突入するのである。

(9) 「あじまりかん」によるミロク世本番の開始

「あじまりかん」の秘密が公開されたことによって、日本の皇統（天皇家）に結びつけられた天壤無窮てんじょうむきゆう性（永続的な平和と繁栄）が全人類の属性となった。すなわち、「あじまりかん」のある限り、人類は永遠の平和と繁栄を享受できるのだ。それこそが誰も解けなかった「二輪の秘密」だったのである。

とどめの神「あじまりかん」によるミロク世本番が開始されたので、人類は既に『あじまりかん』による神化の渦」の中に飛び込んでしまったのだ。

地上天国は絵に描いた餅であることをやめ、間もなく実現されることになったのだ。だが、それは「あじまりかん行者」が何をするのかということにかかっている。本書では、我々「あじまりかん行者」の行き方・生き方という観点で、何をどのようにしたらよいかを検討することにした。



「あじまりかん」は拈り（=渦巻き）が大切

# 第一章 あじまりかん行者となる

◆私は如何にして「あじまりかん行者」となったか

2015年の夏に、私は『世界神道の提唱』三部作をKindle本として出版した。現在出版されている『アジマリカンの降臨』の前身となる本である。本文は次のような三部構成となっていた。

『世界神道の提唱』三部作	アジマリカンの降臨
上巻…世界神道入門	第一部…玉手箱編
中巻…生命の樹の発見	第二部…生命樹編
下巻…弥勒とは何か	第三部…ミロク編

私は自身の著作『世界神道の提唱』三部作の執筆中に「あじまりかん行者」となった。執筆開始時点では「あじまりかん」の「あ」の字もなかったのだが、途中から「あじまりかん」を唱えるようになったという経緯が存在する。

中巻「生命の樹の発見」から下巻「弥勒とは何か」を書いている途中のことだ。私は屋根裏部屋で、佐藤定吉博士の遺作『日本とはどんな国―秘められた人類救済の原理』を発見して精読した。それから大変なこと―**神の降臨**が始まったのである。図『アジマリカンの降臨』神さま探求マップ（裏表紙見

返しカラー頁）の中に「あじまりかん体験」の枠が存在する。その辺りで私は「あじまりかん行者」となったのだ。

『アジマリカンの降臨』では歴史というものが極めて重要な探求領域となっており、歴史の中でも特に「日本建国史」が神さま探求の中心エリアとなっている。日本の神の正体が分からず古代史探究を行っている時に、ついに本命にヒットしたのだ。私の場合、日本の神の本命というのが「あじまりかん」だったのだ。山陰神道の大神呪「あじまりかん」そのものは、私が宗教探求を開始した大学生時代に知っていた。だが、当時は関心がなく、全く「あじまりかん」を唱えなかった。ところが、2015年に『日本とはどんな国』を読んだ時には、**実際に「あじまりかん」を唱えた**のである。

たとえ「あじまりかん」という言葉を知っていても、唱えなければ効き目が分からない。「あじまりかん」を唱えた時に最初に気付いたのは、「あじまりかん」という響きの不思議な存在感であった。「あじまりかん」という言葉そのものが、そこに実在しているかのような感覚を持ったのだ。『あじまりかん』というのとは一体何者なんだ?! ひよつとして、神さまじゃないか」と思ったのである。佐藤博士の『日本とはどんな国』を繰り返し読み返して読むうちに、私が「あじまりかん」に対して感じたのと同じことを佐藤博士も気付いており、『神』が人の中から顕現する時の響き」と表現していたことが分かった。私と佐藤博士に共通する「あじまりかんの存在感」に対する感覚。その意味は一体何だろうか？

◆ 「あじまりかん」で人は神になる

「あじまりかん」は人を神に変える言霊だ。

実際に「あじまりかん」を唱えた時、私はほぼ瞬間的にこの結論に達していた。通常、人は生まれ変わりに死に変わりして、大変な苦勞をして様々な修行をしなければ神と一つにはなれない、というのが常識である（らしい）。ところが、「あじまりかん」は全く違っている。「あじまりかん」と唱えた瞬間に神さまが入ってくる。一生懸命修行して神さまに近づこうとするのではなく、「あじまりかん」を唱えると神さまの方から唱える人の中に飛び込んでくるのだ。『あじまりかん』を唱えるだけで無条件で神さまになれるのであれば、誰でもすぐに神さまになってしまいうじゃないか」と気付いたので。

また、『あじまりかん』を唱えることは超簡単だから世界中に広まるぞ！ 全人類が『あじまりかん』で一気に救われてしまうぞ！ これは、世界神道だな」と思うのと同時に、『世界神道の提唱』三部作という自著の構成やコンセプトがすぐに浮かんできた。後は、「あじまりかん」を唱えながら、自著を完成させるべく理論を整理する段階に入ってしまったという具合である。

「あじまりかん行者」という言葉は、『日本とはどんな国』の中で佐藤博士が、イエス・キリストや日本の天皇のことを「あじまりかんの行者」であると語っていたところから思いついた造語である。佐藤博士の語る「あじまりかんの行者」とは「世の罪を十字架として背負った祭司長」という意味があり、私の使い方とは全く異なる（誤りである）。私の定義は単純で、「あじまりかん行者」とは「あじまりかんをひたすら唱える人（行じる人＝行者）」という意味になる。私の解釈の方が正しい。

#### ◆「あじまりかん」を唱えたら「あじまりかん」の秘密が解けた

私が「あじまりかん行者」となって以来、次のような「あじまりかん」の謎がどんどん解けてきた。

「あじまりかんこそが、大本神諭や日月神示で語られる一厘の仕組である」

「浦島太郎Ⅱアメノヒボコがあじまりかんを玉手箱に納めるのと同時に天皇家を創始した」

「あじまりかんの本体の神は造化三神Ⅱ大元霊であり、渦巻きとなって宇宙を創造される」

「神は全人類を現在のまま、丸ごと救済される予定である」

といった人類レベルの救済計画も含めて、どんどん分かってきてしまったのだ。こんなすごいことが「あじまりかん」で起きることになっているのを、黙っていられるはずがないではないか。「あじまりかんはずすごいぞ！ あじまりかんを唱えよう！」と大声で叫び始めたのである。

ところで、私があじまりかん行者となつてから、何か特別なことをやったかと言えば、普段通りの生活をしながら、思い出した時に「あじまりかん」を唱えただけである。普段通りの生活（昼はプログラマーとしての仕事をし、家に帰ってきてからは拙著を執筆した）を送りながら、ただ「あじまりかん」を唱えたのである。

要するに、何か特別なことをした訳ではないということだ。その点が非常に重要である。誰でもできることしかやっていないのだ。ここで言いたいのは、誰でも簡単にあじまりかん行者になれるということだ。「あじまりかん」を唱えたり想ったりする以外は、一切従来通りの生活を送るだけでいいのだ。誰でもできるではないか。地球人ならば誰でもあじまりかん行者になれるのである。

◆「あじまりかん」を唱えたらイエスが現れた

『世界神道の提唱』三部作の下巻『弥勒とは何か』のエピローグより、筆者が「あじまりかん」を唱えた際の実感を表明しているところを紹介しよう。

『あじまりかん』を唱えれば、そこに神が顕現する。今まで、『あじまりかん』を唱えてきた人は一杯いるのだが、誰も私と同じ報告をした人はいなかった。それが不思議でしかたがない。自分の中に神が顕現しているにもかかわらず、それとは気付かずにはいたただけだということなのだろうか。『あじまりかん』を唱えている時の響きそのものが神の顕現状態であり、神力の発動状態なのである。筆者と同じことを言ったのは、「日本とはどんな国」の著者である佐藤定吉博士ただ一人であり、これらの行法を博士に伝えた山蔭神道の代表（故山蔭基史師）すら、そこまでの言及はなかったのだ。

私は佐藤定吉博士のレポートが本当かどうかを、自分で『あじまりかん』を唱えることによって確認しただけなのだ。その確認作業は誰でも可能である。ただ一言、「あじまりかん！」で、そこに神の光の柱が立つのだ。天皇の座とはどんな座り心地なのか、誰でも体験ができるのである。これは掛け値なしのものすごい話なのだ。やるしかないだろう。

今思うに、本書執筆の途中で大神呪「あじまりかん」を知って称えた結果として、予想すらしていなかったことが起きた。イエス・キリストが筆者の元に現れたのである。彼から伝えられたことは、彼が磔刑になったことは歴史的事実であり、そのことによって地球に神の国が出現する基礎が築かれたということである。アメノヒボコらによる日本建国を導いたのはイエス個人ではなく、イエスの磔刑によって地球に浸透したキリスト霊（＝太陽神）であるということが分かったのだ。



私は自身の著作の執筆中にイエス個人の霊的な来訪を受けた。私自身はチャネラーや霊視者ではないので、イエスの言葉が聞こえたり姿が見えたりするわけではない。それでも、私のところにイエスの霊が（波動として）現れた。どうしてイエスは私のところに来たのだろうか？

#### ◆イエスには「あじまりかん」がなかった

イエスの教えの中には「あじまりかん」のような**神法**は存在しない。人を神に変える教えはイエスの時代にはなかったであろう。『日本とはどんな国』を書いた佐藤定吉博士は、イエスを「あじまりかんの行者」と呼んだが、これは「人類の罪を負った人」の意味ではない。

新約聖書を読む限りでは、イエスはなかなかの人物だったと思うしかないのだが、福音書に書かれたイエスの生き方は特別過ぎて全く我々の参考にはならない。イエスの生き方に感動しても真似ができないからだ。普通の人が真似できないような生き方というのは、どんなに素晴らしくても絵に描いた餅ではない。よって、イエスの教えでは、普通の人間はイエスのようにはなれない（ところで、イエスのようになりたい人などいるのだろうか？ 私は絶対になりたくない）。

福音書作家はイエスに「わたしを見た者は父を見たのです」とか「わたしを通してしか神の国に行けない」といった**科白**を吐かせているが、これは創作であろう。明らかに間違っているからだ。

誰でも神の子として神の国に行けるのである。福音書作家がイエス一人だけを神に選ばれた特別な人間として描いた時点で、イエスが異様な偶像となってしまうという命運が決まったのだ。西暦二千年間

の人類の不幸はイエスの偶像化によって決定付けられたのである。イエスは偉人だったかも知れないが、正しい教えを残すことには完全に失敗している（大部分がローマ教会の責任であって、イエス本人の責任ではないが……）。

佐藤定吉博士は「あじまりかん」の秘密を解こうとしながら、クリスチャンとして、聖書の誤ったイエス像を信じることを止めなかった。だから、「あじまりかんⅡ世の罪を負う祭司長」などという解釈に陥ってしまい、正解できなかったのである。

イエスも我々と全く同じ人間であり、特別な人ではない。イエスが神の子なら我々も例外なく神の子だ。それこそが真実なのに、福音書の中のイエスは神そのものとして神話化されてしまった。福音書のイエスは、「そのやり方だったら、僕もできる。私もできる」という生き方をしていない。キリスト教という醜悪な負の遺産を後世に押し付けてしまっており、全くいただけない。

イエスは、イエスの教えそのものをキリスト教を含めて精算して欲しかったのであろう。だから、私の元に現れたのだと考えざるを得ないのである。その意を受けて、私は偶像イエスに対して、「イエスよ、お前は目障りだ。お前なんか要らない！」と蹴っ飛ばしているのだ。

それでは、イエスの存在意義とは何だろうか？

結果を見て推し量るべきであろう。人類を二千年間の神を見失った牢獄に押しとどめるためにイエスは偶像として使われたのである。イエスの実像はもつとシンプルな好人物のはずだが、「イエスだけが神の子だ」というのがキリスト教の教えである。それでは、残りの人間は罪の子に留まるしかないではないか。論理的にイエス以外の人間は救われないのだ。このように独善的なキリスト教が世界宗教になったということは悪神の経緯であり、イエス個人にはどうにもならない歴史の流れであった。キリスト

教の描く偶像イエスの登場によって、霊的な視力（神を見る目）を失った人類は、その間に皮肉にも物質文明を急速に発達させることができた。そのことで良しとすべきであろう。

### ◆人類が「あじまりかん」意識に突入するということ

「あじまりかん」の本を書いた斎藤は、取り立てて立派な人間ではないし、イエスのように犠牲的な人生を歩んでいる訳ではない。自分の得意分野でちよつとだけ頑張っている親父に過ぎない。だが、「あじまりかん」を唱えた人間はみな、その恩恵を受けて心からの願いが叶って幸せになり、神をごく身近に感じる事ができて、最終的には神人一如となる。実際にそのようになりつつあるのではなからうか（「あじまりかん体験」の報告待っています！）。

斎藤が絵に描いたような立派な人間でなくても、斎藤が解明した「あじまりかん」の効果は素晴らしくであろう。唱えた人がその場で神になってしまふのである。

私は、「あじまりかん」という素晴らしい神からの贈り物を解明するという名誉に与ったのだが、人類の歴史上「あじまりかん」に似たものは皆無ではなからうか。ものすごいと言っても言い足りないくらいすごいモノが出たのだ。

「あじまりかん」を唱えると、その場で神が降臨し、人は神と一体になってしまふ。「あじまりかん」で誰でも神の直接体験が可能なのである。イエスの教えもキリスト教も仏教も関係ないのだ。お役目終了なのである。近いうちに、「あじまりかん」で全人類が神の中にすっぽりと入るのだ。その意識の中では、民族も歴史的経緯も超えて、誰もが神の子であり兄弟姉妹であるという認識状態になるのだ。そ

のプロセスは不可逆的であり、もう人類は、無駄な後戻りをすることはない。戦争も民族対立も宗教対立も「あじまりかん」の意識の中で消えてしまうからである。

何故今「あじまりかん」が出てきたのか？ それは、スマホのような便利なモノが当たり前の時代になったからだ。スマホが存在するこの時代がミロクの世なのだ。ミロクの世にならないと、「あじまりかん」は出ることができなかつたのだ。なぜなら、「あじまりかん」はあたかも携帯電話のようにいつも身につけて（思い出した時に）利用するモノだからである。携帯電話がなければ、「あじまりかん」の利用イメージが湧かないではないか。

「あじまりかん」はいつでもどこでもスマホのように気軽に使うべき言霊である。

斎藤の感覚では「あじまりかん」とは携帯（スマホ）化された「神さま」なのだ。ついに、神さまを気軽に誰でも携帯する時代になったのである。神さまを誰でも気軽に携帯できないことには、人類が一つの家族意識になるような事態は起こりっこないのだ。つまり、みんながスマホのように「あじまりかん」するようにならなければ、世界平和など夢のまた夢なのである。

「あじまりかん」は、これから花咲く神さま文明の利器なのである。普及させるっきゃないのだ。

私は、ソフトウェア業界に40年近く身を置いてきた。ステイブ・ジョブズやビル・ゲイツと全く同じ時代と同じ技術の世界で仕事を続けてきた。そしてようやく、彼らが「どうだ、すごいだろ。使いやがれ」と言わんばかりに



「神さまを携帯する」ことで超特急の人類救済が可能となる！

世に放ったテクノロジーの産物（PC、インターネット、携帯電話など）を見本にして（あるいは逆手に取って）、神さま文明を構築するという事態が現実的になってきた。

「あじまりかん」こそが「後戻りしない神さま文明」を構築するための最大の武器となるのである。本件については、章を改めて検討することにしよう。

### ◆「あじまりかんで神になる」の真意

「あじまりかん」を唱えた結果として、あじまりかん行者は神になるのだ。あじまりかん行者が神になるとは一体どういうことか？ 「神になる」の「神」とは一体どんな神なのだろうか？

唱えた人間が神になるなんて、「あじまりかん」という修行法は前代未聞の効能である。少なくとも、私の40年余りの神さま探求の履歴の中には全く存在しない概念である。そのような神秘の修行法が、大和が建国された応神天皇の時代（1750年前）から存在していたということは、奇跡以外の何ものでもない。応神天皇の時代より現代に至るまで、「あじまりかん」の言霊の響きそのものは変化していないはずだ。だから、「あじまりかん」を唱えた時の効果そのものは、当時から現在まで同一のはずである。

「あじまりかんで神になる」とは、目覚めた意識の中で神を直接体験するということだ。神の直接体験とは、あなたが神の存在を感得し神の波動を帯びた人間になるという意味である。

実を言えば、神を直接体験する方法は既に確立されているのである。ご存じの方がおられるかも知れないが、パラマハンサ・ヨガナンダ（ヒマラヤ聖者「ババジ」のひ孫弟子である）が米国に設立した

Self-Realization Fellowship (S R F)。日本語訳は自己実現同志会) が提供する「クリヤ・ヨガ」という修行体系が存在する。クリヤ・ヨガの秘伝を受ければ神を直接体験する道が開けるのである。クリヤ・ヨガの修行方法は秘伝であり文書化されていない。よって、グル(師)に相当する先生から直接伝授を受けなければならぬ。

不肖、私も学生時代にS R Fの英文講座を受講し、クリヤ・ヨガの伝授を受ける準備をしていたのであるが、迂闊にもタイミングを逸してしまい、伝授は受けていない。受けていれば、あじまりかん効果との比較を行うことができたはずなので、少し残念である(現在では、日本国内にも「クリヤ・ヨガ」の指導者がいるようだが、私は40年前の情報しか持っていないので紹介する立場にはない)。

◆「あじまりかん」そのものがあなたの師匠(守護神)である

「あじまりかん」を唱えるのに師匠先生は不要である。何故か？　ここが大切なのできちんと押さえておきたい。

「あじまりかん」という言葉は実神、すなわち、神さまの波動の実体が存在する。実神とは大元霊創造化三神の波動エネルギーである。その波動エネルギーが、「あじまりかん」を唱える人にとっての神さま師匠先生となるのだ。つまり、「あじまりかん」を唱えるだけで、その人は「あなた専任の神さま師匠先生(としての波動エネルギー)」に手取り足取り導いてもらえるのである。「あじまりかん」の修行では基本的に人間の師匠は不要なのだ。まさに「インド人もビックリ(古いギャグなので笑えないかも知れない)」なシステムではないか。「あじまりかん」修行では、「一体どういう仕組になっ



渦潮＝「あじまりかんの渦」のイメージ②

ているのだろう！」と驚かざるを得ないような神秘的なメカニズムが働くのである。

よって、あじまりかん行者は、日々の生活の中で、ただ「あじまりかん」を唱え続けてゆけば、自然に見えざる神の御手みでによって導かれるのである。まるで、目に見えないスマホを所持して、そこからメッセージを受け取るような感覚で指導を受けることになるのだ。この事情は、1750年前の応神天皇の時代から変わっていないはずだ。繰り返すが、「あじまりかん」のコトタマは当時から今まで変わっていない。

すべて、神秘的なる「あじまりかん」のコトタマがなせる業わざなのである。

「第二章 あじまりかんの渦の中心になる」に続く……

## 読者のあじまりかん体験

☆スムーズ&ふんわり（A. D. さん）

『あじまりかんの法則』を読み、それから「あじまりかん」と唱えています。

大きな変化はありませんが、唱え出してから流れてスムーズになった様な気がします。

仕事で大変な時に心の中で「あじまりかん」と唱えると、何かふんわりと乗り越えられます。今までは引き寄せの法則やマーフィーの法則を読みましたが、実感は得られず。今は無心に「あじまりかん」を唱えています。

☆ふわふわ浮き上がる感じ（W. T. さん）

夜に布団に入って寝る前に「あじまりかん、…」と心の中で唱えていると、ふわふわ体が浮き

上がる感じがします。横向きで寝るときは下の方に「あじまりかん」のハンモックがある感じがしたときもありました。これからも「あじまりかん」のパワーに触れながら過ごしていきたいです。

☆エネルギーと一体化（K. Y. さん）

夏からアジマリカンを唱えています。最初はエネルギーが来て、光が美しいと感じてました。

最近はずっとです。

エネルギーが自分の前に大きなかたまりとして存在して、その中に入ってしまおうようになりました。

アジマリカンを唱えていますと変化して行くのです。ようか。とても快適に過ごしております！

（斎藤の「エネルギーと一体化するようになるかも知れない」とコメントした後……）

確かにエネルギーと一体感を！

アジマリカンを唱えようと思うと直ぐにエネルギーと一体化したようになってきました。



アジマリカンを唱える事を忘れてしまうことが増えてますが、日常で都合よく事が運ぶので一人で笑ってしまいます！

### ☆幸せな気分一杯（さくらさん）

あじまりかんを唱え始めて2ヶ月程になります。この2ヶ月の間、色々な不思議な事がありました。

好転反応なのか、人間関係が変わってきました。今まで仲良くしていた人達と話が合わなくなり、縁が切れていきました。あじまりかんを唱えていると、人の深い思いが伝わってくるというか、人の本音がわかるようになってきました。

あと、しよつちゆうゾロ目を見るようになりました。ふと時計やスマホを見ると、ゾロ目なので、きつとあじまりかん効果かな？ と思います。

あと、車で出掛けて駐車しようとする、凄いタイミングで必ず駐車スペースが空きます。

あと、ついていることが度々起き続けています。

出かけると快晴が多く、車の渋滞に巻き込まれることもありません。

旅行に行くときまたま往復バスのキャンセル期間で、バス代金無料になったり、土砂崩れが起こっていた場所が、旅行に行った日に解除されたり。

自宅で教室をしているのですが、不思議と生徒さんが増えてきています。ありがたいことです。

そして何より唱えていると、幸せな気分ではないになります。生かされているだけで、幸せそのものだったということを感じられる自分になりました！

ありがたいな〜という気持ち自然に湧いてくるようになり、それがなにより有り難いです！

あじまりかん友の会では、読者の方々のあじまりかん体験や感想を募集しております。  
↓ [tomonokai@ajimarkan.com](mailto:tomonokai@ajimarkan.com)

## あじまりかんQ&A

**Q** 人から「心が狭い」と指摘され、心を広くしたいのですが、あじまりかんを唱えれば、心が広くなるのでしょうか？

**A** 自分の現在（心が狭い）を自覚しており、近未来（心が広い）の自分をイメージできれば、「あじまりかん」を唱えずとも広い心の人間になります。以上は原則論の話です。  
実際には、人間生まれ持った性格や癖を根本的に直すというのは、私自身を含め難しいことが多いです。

分かっちゃいるけど止められないのが人間です。「あじまりかん」を唱えることによって、奇跡的に性格が良くなるということは難しいです。私の場合で言えば、怒りっぽいとか言葉がきついなどの欠点があります。これは十

分に分かっているけど簡単には直らないものようです。

ご質問の「広い心を持ちたい」という希望ですが、恐らく人間関係で思わず自分中心の反応が出てしまい、人に迷惑をかけてしまうようなことがあるのではないかと推察します。以下は自戒を含めてのアドバイスです。以下のアドバイスには「あじまりかん」という言葉は含まれていません。根本的な心の修行の問題に対する考え方だからです。もちろん、「あじまりかん」を唱えながらで良いですが、その場合の「あじまりかん」とは、神さまに対する必死の祈りとなるべきです。

・ **まず自分の問題点に気付くこと**  
気付いていれば、相手に対する反応が柔らかくなります。

・ **「ごめんなさい」が素直に言えること**

やってしまった場合は、すぐに相手に謝る(難しいことが多いですが……)。

・罪滅ぼしをすること

自分の欠点を自覚した上で、それをカバーするような善行(人を褒めたり、何かしてあげたり、自然な行為として)をできるように努める。

・欠点以上に長所を伸ばすこと

「角を矯めて牛を殺す」という言葉がありますが、自分の性格を直すことによって本来の良さや持ち味が消えてしまつては、やり過ぎです。自分の長所を生かす良いことを積極的にやってみることで、プラス・マイナス・ゼロからプラスの方に行くような生き方は十分に可能です。良いことをどんどん実行している自分になるよう、「あじまりかん」を唱えるべきです。

・儀式(心からの懺悔)が必要

現在の自分から、新しい自分に生まれ変わることも不可能ではありません。ですが、それには、死と再生の儀式が必要です。

死と再生の儀式とは、悪い自分と決別し新しい自分に生まれ変わるための儀式のことで、あくまでも心の中でのけじめの問題です。その儀式の内容とは、「神さまや隣人に対して必死で謝ること」だったりします。その際の真剣さに応じた効果があります。

ともかく、心から自分の問題点に対して反省と懺悔ができるならば、性格も変化してくると思います。生まれ変わるには「懺悔」が必要です。普通の人間は、この「懺悔」をするような気持ちも機会もないですから、その意味で儀式が必要となるのです。何かのヒントになれば幸いです。

Q

一日一万回の奉唱を毎日の日課としています。山蔭神道では、あじまりかんの奉唱行に対応する「印」が数種類伝えられているそうです。三密（注…密教用語。身と口と意）をフルに使っての奉唱は、より効果的だと思いますが、如何でしょうか？

A

一日一万回唱えておられるとのこと。すごいですね。私も三年ぐらい前の一時はそのくらい唱えていましたが、現在は殆ど唱えていません。理由としては、自分が「あじまりかん」と一体になってしまったので、唱える必要すら感じなくなってしまったということです。自分の身体の中で常時「あじまりかん」が鳴っています。

山蔭神道のあじまりかんの印が存在することは知っています。私は全く山蔭神道に行ったことはないのです。印に関しては全く知らないのです。（故山蔭基央師、ご子息の山蔭仁嘉師、

第80世の山蔭員英師には一度だけお目にかかっています）

『あじまりかんの法則』や『アジマリカンの降臨』の本を書く上で、印の存在は必須ではなかったとしか、言うことができません。また、私の場合は、ただ「あじまりかん」を真剣に唱えただけで、自分のライフワークを完成することができそうだという、一種の「あじまりかん」効果の証人なので、印を使うという気持ちがありません。

以上、質問に対する回答になっっているかどうか分かりませんが、正直なところをお答えしました。

当会ではいつでも、読者の方々からの質問を受け付けております。ご遠慮なくどうぞ。  
↓ [tomonokai@ajimarikan.com](mailto:tomonokai@ajimarikan.com)

## 随想 あじまりかんの肝

斎藤敏一

拙著『あじまりかんの法則』Q & Aの最終質問「最終的に『あじまりかん』とは一体何？」のところに、次のようなまとめのセンテンスがある。

「あじまりかん」とは、全ての栄養が含まれた（＝オール・イン・ワン）、魂の完全栄養食品です。

「あじまりかん」を唱えることによって、人間は完全な存在になることができます。

まずは、「あじまりかん」を唱えて、あなたの肉体という素晴らしい神の宮に神をお迎えして下さい。

特に難しいのは「神の実体」を認識するところ、つまり、私が「神の直接体験」という表現で語って

いる内容のところだ。なぜ神を直接体験することが重要なのか？ それは、人間の本質＝魂の中核部分が神から分かれた永遠の生命であるからだ。それが分らないことには、「あじまりかん」でどれだけ願いが叶っても人生の最終目的地には到達できない。人生の最終目的地に到達することを自己実現と呼ぶ。自己実現こそ「あじまりかん」の目的である。そして、「あじまりかん」を唱えると、その目的地に最速で到達できるのだ。

「あじまりかん」が実際に身体の中に入った時の感覚であるが、暖かい感じ、明るい感じ、時には熱い感じがする。また、実際に「あじまりかん」という言葉が自分の中に納まった感じがすれば、うまきいった状態である。この感覚はやってみなければ分からないものなので、まずは想像するところからやっていくのである。

内面の体験に関しては、本人の感覚しか頼るものがないということだ。霊的な感覚を持たれた方の場合、あじまりかんのエネルギーを感じるケースがあ

る（詳細は「読者のあじまりかん体験」参照）。

最初はエネルギーが来て、光が美しいと感じて  
ました。最近はずっとです。

エネルギーが自分の前に大きなたまりとし  
て存在して、その中に入ってしまうようになりま  
した。

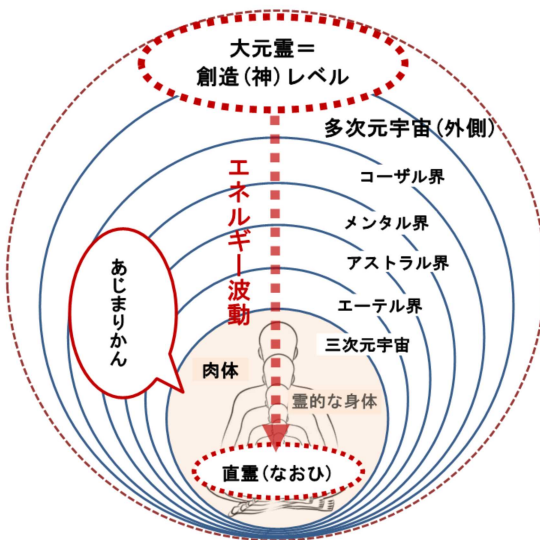
この感覚は私にもよく分かる。

「ふわっとした感じ」という報告が数人から寄せ  
られているが、これは分かり易い。

「あじまりかん」を唱えている時には、このよう  
に非常に神秘的な出来事が起きている。もちろん、  
感じ方は人それぞれなのだが、どういうメカニズム  
でこのような事が起きるのか、次第に分かってきた。

これは人間という存在が一霊四魂<sup>なおい</sup>という構造にな  
っているからである。一霊<sup>なおい</sup>直霊<sup>なおいのみたま</sup>（直日霊とも呼  
ぶ）の部分が「神さま<sup>なおい</sup><sup>のみたま</sup><sup>の</sup>大元霊のエネルギー波動」  
を呼び込むのだ。「あじまりかん」を二千年近く伝承  
してきた山陰神道では、人間の霊的な中心である直  
日霊は大元霊の分かれたものであると説いている。

人間が神<sup>なおい</sup>大元霊の分けみ霊であるからこそ、「あ  
じまりかん」の「コトタマの共鳴作用」<sup>アジマリカンの</sup>  
降臨』で「鳴る成るの原理」として説明している）  
によって神<sup>なおい</sup>大元霊が降臨するというわけだ。私は、  
このメカニズムは科学的に証明可能であると考えて  
おり、その方向で実証を進めてゆく予定である。



「あじまりかん」で大元霊の波動が降臨する！

通常ここで難しいのは、神Ⅱ大元霊を感得することだ。これは、神というものが波動的・エネルギー的な存在であり、五感では感知できないだけではなく、見えない身体（エーテル体、微細身<sup>みさいしん</sup>）の感覚でも微かにしか分からないからだ。

分かりにくいとは言え、神の波動をキャッチする見えない身体が存在し、誰でも神の微かな響き（振動）を感じることができる。特別な霊能力を一切持たない私が、この神の波動を感じているのであるから、どなたでも感じることが可能である。私程度のエーテル体感覚（自分の気Ⅱオーラが蒸気のようにうつすらと見える程度の感覚）ならば誰でも少し訓練すれば身に付けることができる。

この「あじまりかん」の波動は、次第にあなたの中に浸透し、あなたの身体の中から「あじまりかん」の波動（直霊の振動である）が響いていることに気が付くようになる。そうなたらしめたものだ。

この事実が「あじまりかんの肝」なのである。私は「あじまりかん」を唱えるようになって、二年間かけてようやく前記の事実を理解できた。その後で、故山蔭基央師の『神道の神秘』を読むと、一

霊四魂と大元霊の関係については書かれていたが、上図の「あじまりかん」と大元霊波動の関係」については記述はなく、私が初めて気付いたらしいということが分かってきた。

「あじまりかん」と大元霊波動の関係」に、先代の山蔭神道管長も気付いていなかった。そこに、大きな意味があると思う。

これはやつぱりタイミングの問題だろう。神界からのGOサインが出たのが2017年だったということではなかったか。今や「あじまりかんで行け行け！」の青信号になったという意味に解する。

大元霊を感得すると、「永遠の生命」の実感が生まれる。「死なない身体になった」（もちろん、実際には寿命で死ぬことは避けられないが）という不思議な自覚が出てくる。自分の思うことが神のみ心と一致し、自在の人生が自分のものになる。

私が本当に伝えたかったのは、『アジマリカンの降臨』に書いた内容だ。このタイトルは、『アジマリカンⅡ神』が降臨して、唱えた人が神になる」という意味だ。「2018年は読者自身が神となる年である」と観じているのである。

## あじまりかん友の会とは

「あじまりかん」は、単に個人の願いを叶えるだけの言葉ではありません。個人も人類も「あじまりかん」を唱えるだけで、神とひとつになることができます。神とひとつになるための行為として、こんな簡単な方法は今まで存在しなかったのです。

正確に言えば、「あじまりかんを唱えること」の究極の真価である「神との一体化による自己実現」という効果に斎藤が初めて気付いたのです。

「あじまりかんを唱えること」の絶大な真価に気付いてしまった以上、多くの人に伝えたいと思うのは自然な成り行きです。斎藤がただ「あじまりかん」を唱えてじっとしているだけでは、良いことは何も起こりません。「あじまりかん」を唱えた結果としての前記の認識から、必然的に行動が生まれます。

「あじまりかんはずいぞー！」  
「とにかく、あじまりかんを唱えてこらん」

と大声で叫ぶ人間が必要なのです。斎藤という「あじまりかん行者」第一号が誕生し、「あじまりかんを唱えよう」と大声で叫び始めたのです。自分のことを「あじまりかん行者」と呼ぶのは、奇をてらったものではありません。自身の本質を素直に表現した時、自然に「あじまりかん行者」という言葉になったのです。

私と同じようなことに気付いていた方は大勢おられたのですが、『あじまりかん』を唱えると神（大元霊）が降臨する』とハッキリ宣言した人は今まで一人もいなかったのです。私は、とことん「あじまりかん」を唱えた結果として、以上の事実を明確に認識できたからこそ伝え始めたのです。

「あじまりかん友の会」は、「あじまりかん」を人生に活用する方々のための情報発信と共有の場として作られました。「あじまりかん」を実践する方であれば、どなたでも参加することができます。

こぞって「あじまりかん友の会」にご参加下さい。

2017年12月吉日 斎藤敏一、拝



## あじまりかん講座のご案内

あじまりかん講座はその名前の通り、『あじまりかんの法則』や『アジマリカンの降臨』の読者の方たちが、自信を持って「あじまりかん人生」を歩んで行かれるために必要な情報を著者から直接お届けすることを目的としています。

2017年12月以降、月一回のペースで「あじまりかん講座」を開催します。開催スケジュールはあじまりかん友の会のホームページで決定次第発表します。また、メールマガジンでもご案内します。

準備の関係で、当面の開催地は次のようになります。

- ・偶数月……地元、神奈川県相模原市で開催します。
- ・奇数月……関東以外の地方で開催を予定しています。

松山と福岡は決定しています。「来てほしい」という声を上げてください。早期開催が可能です。

2017年12月17日(日)：相模大野講座(9:00～13:00)

場所：ユニコムプラザ相模原ミーティングルーム4  
内容：9:00～10:30 は個人相談、

10:30～12:00 は体験発表とテキスト「あじま

りかん通信創刊号」解説

12:00～13:00 は質疑応答、フリートーク

定員：30名

2018年1月26日(金)：松山地方講座(13:00～17:00)

場所：松山市ひめぎんホール別館第12会議室

内容：相模大野12月講座と同様

定員：30名

2018年2月25日(日)：相模大野講座(9:00～13:00)

詳細はあじまりかん友の会ホームページをご覧ください。

2018年3月31日(土)：福岡地方講座(13:00～17:00)

場所：福岡市福岡県教育会館第4会議室

内容：相模大野2月講座と同様

定員：30名

あじまりかん講座に関する詳細や参加申し込みは、あじまりかん友の会ホームページよりどうぞ。

「スケジュール(2017～2018)」<[https://ajimari-](https://ajimari-kan.com/schedule_2017_2018/)

[kan.com/schedule\\_2017\\_2018/](https://ajimari-kan.com/schedule_2017_2018/)>

# 編集後記

今回、本誌を企画するための準備作業として、自身の四十年間の精神世界との関わりをおさらいをした。そこで改めて分かったことがある。

何が分かったかと言えば、「人類が向かうべき方向性は議論されているが、具体的に何をしたら良いのかは示されていない」という事実だ。

私も寄稿した『水瓶座の時代』（村松祐羽編）というムックが存在する。1984年に聖音閣から「小樽発手づくり通信」のキャッチコピーで出版された、自己実現を目指した、かなり志の高いムックである。同ムックは、今読んでもためになる貴重な資料である。『水瓶座の時代』には、次のような様々な情報ソースが登場していた。

- ・ブレアデス星人セムヤーゼ（エドアルド・ビリー・マイヤー）
- ・韓国の霊能者・安東民のオウム振動
- ・アロン・アブラハムセンのアカシック・レコード探求
- ・ケビン・ライアーセンらのライフ・リーディング実例
- ・広瀬健次郎の「五つの未来預言」
- ・橋香道の「万世一系の原理と般若心経の謎、抜粋」

- ・中野裕道の「日本の淵源と鎮魂の由来（霊動法）」
- ・吾郷清彦の「超古代文明の奇跡をさぐる」
- ・加茂喜三の「超古代人は星座を地上にコピーした」
- ・日本ラエリアン・ムーブメント「エロヒムについての五の基礎知識」

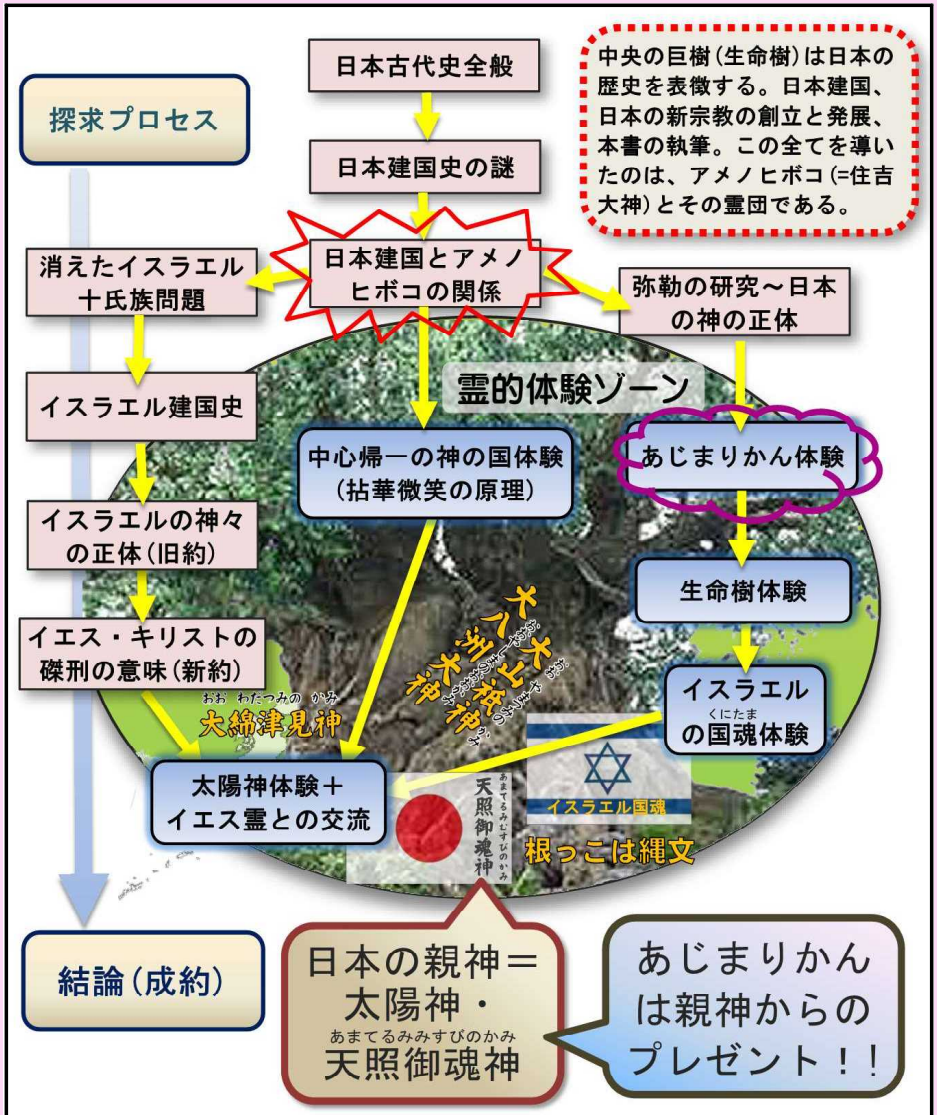
- ・山田久延彦の「謎の日本海底大油田」
- ・三室真人（私）の「新時代のネットワーク構想」

私自身の小論も入っているが、いずれも例外なく未来への最終回答「具体的に××すればよい」は示せていない。編集人である村松氏の信条「社会を変革するためには、まずその社会を構成する私達一人一人の意識の変革から……」は正論であり純粹である。だが、決定的な情報を登場させることには成功していない。

だが、本物もいたと思う。韓国の安東民師は私も会ったことがあるユニークな霊能者であった。師は「日本にしか神界は存在しない」と語っていたことが印象的である（似たことを『アジマリカンの降臨』の中で私も述べた）。

幸いなことに、2017年、私は決定的な情報を示すことができた。33年前には全く予想も想像もできなかった最終回答「神そのもの」を手にしたのだ。それが「あじまらんかん」である。

本誌では、最終回答「あじまらんかん＝神そのもの」を多くの人に手渡していきたい。



『アジマリカンの降臨』 神さま探求マップ…あじまりかん体験に注目！

**【解説】** 中央の巨樹は生命の樹を表している。旧約聖書では生命の樹はエデンの園にあったことになっているが、『アジマリカンの降臨』では人類史の流れを意味している。日本建国時にイスラエル十二支族統合霊(ヤコブ霊)が日本の国霊に融合したことによって、イスラエル史が日本史に接続&統合された。その時点でイスラエルは日本に(霊的に)吸収・統合されたのである。現在のイスラエル国には真の神は不在であり、真性イスラエル国の魂は凡そ千八百年前から日本に存在しており、「あじまりかん」は当時の日本(=大和)国に天降ったのである。



初日の出：豊後二見ヶ浦（大分県）

◎相模大野講座

2017年12月17日(日)9:00～13:00  
ユニコムプラザ相模原会議室4

◎松山地方講座

2018年1月26日(金)13:00～17:00  
松山市ひめぎんホール別館第12会議室

◎相模大野講座

2018年2月25日(日)9:00～13:00

◎福岡地方講座

2018年3月31日(土)13:00～17:00  
福岡市福岡県教育会館第4会議室

詳細はあじまりかん友の会ホームページ  
をご覧ください。

↑ ↓ ↓ ↓

[https://ajimarikan.com/schedule\\_2017\\_2018/](https://ajimarikan.com/schedule_2017_2018/)

発行人：斎藤敏一／あじまりかん友の会 あじまりかん通信編集部

印刷所：銀河書籍

発行所：あじまりかん友の会

〒252-0333 神奈川県相模原市南区東大沼 4-11-10

Tel/Fax: 042-712-3004

Mail: tomonokai@ajimarikan.com